

平成 29 年度 長期学校体験実習 報告 (2 年次 後期開講)

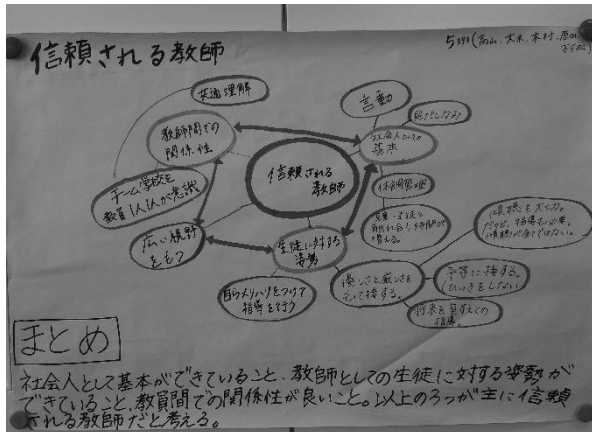
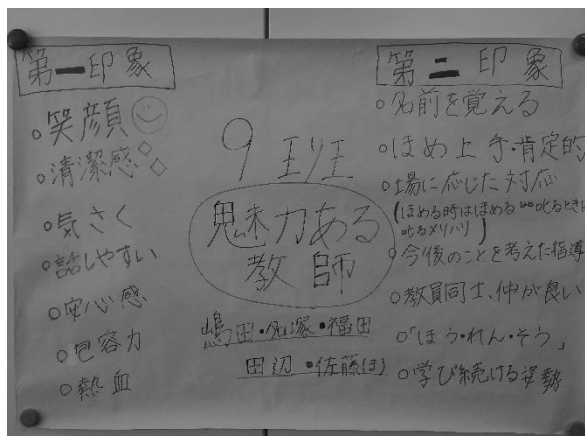
平成 29 年度の長期学校体験実習は、8 月 4 日 (金) の事前指導に始まり、9 月 26 日 (火) ～10 月 20 日 (金) (1 期)、中間指導を含んで、10 月 31 日 (火) ～11 月 24 日 (金) (2 期)、12 月 1 日 (金) の実習報告会まで 3 か月間にわたり実施しました。

配置校は、坂戸市及び鶴ヶ島市内の全小・中学校 32 校、埼玉県立鴻巣女子高等学校、埼玉県立川越工業高等学校の計 34 校にお世話になりました。以下、学生の様子を報告いたします。

自転車交通安全防犯教室

西入間警察署よりご指導いただきました。ご講義では交通ルールについてご指導いただき、実際に自転車の乗車体験を行いました。

実習校への交通手段が自転車の学生もいることから、児童生徒も学んでいる交通安全のルールやマナー、不審者等への対応を含めた防犯意識の向上を目的に実施しています。



中間指導では、「魅力ある教師」「信頼される教師」について、1 期の実習経験をふまえてグループで協議し、発表することで言語化できるようにします。さらに 2 期の実習目標をたて、どのように目標を達成するのか、具体的な手立てを考えます。

平成 29 年度 長期学校体験実習 各学校での様子



長期学校体験実習を振り返って

学生実行委員長 2 年 佐久間 梨緒

私たちは実習に出向くにあたり、入念な準備をしまいいりました。安全に実習校に通うことができるよう、9月25日には西入間警察署から指導員をお招きし、自転車安全教室を実行委員主導で行いました。自身の身の安全を確保し、児童生徒の手本となる自転車の乗り方を、丁寧にご指導いただきました。また実習先に打ち合わせに出向いたり、お電話したりする際に、より良い挨拶・自己紹介ができるよう、挨拶練習を行いました。通学途中の事故もなく、実習先では緊張しながらも大きな声で挨拶ができたことから、自転車教室や挨拶練習等の準備の大切さを実感いたしました。

長期学校体験実習では、実際の教育現場に立たせていただき、児童生徒と過ごす中で、相手の思いを読み取ることの難しさを知り、児童生徒の視点に立って考えることの大切さを学びました。また、教職員の皆様の連携の様子からは情報共有の重要性を、生徒との会話からは柔軟性のある対応力や視野を広く持つことの大切さを学びました。実際の教育現場は想像よりもはるかに、思い通りにいかないものだと思うと同時に、児童生徒の可愛さや教職員の皆様の子どもを愛する気持ちに接し、養護教諭として自分もこの愛情溢れる現場で働きたいという思いが強くなりました。緊張と不安で始まった実習でしたが、思い返すとあっという間で毎日が勉強の連続でした。一人ひとりがそれぞれの目標を持ち、様々な経験を経て、貴重な学びを達成できたことと思います。

報告会は、各自の学びを発表し、共有することで、教師としての資質や能力を高めることを目的としています。養護教諭への道につなげるためにも、充実した報告会にしていきたいと思っております。

終わりに、お忙しい中実習を快くお引き受けくださり、温かく丁寧なご指導をいただきました各学校の校長先生ならびに関係の諸先生方、教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

平成 29 年度 長期学校体験実習 報告書 (記述原本)

長期学校体験実習報告書 (中学校・高等学校)					
学籍番号			氏名		
〈実習校の概要〉					
学校名	坂戸市立 中学校				
児童・生徒数	378 名	学級数	11 (1)	教職員数	34 名
実習期間	9/26 ~ 10/20		指導者名	教頭先生	
学校環境(沿革) 生徒実態 教育の特徴	「よく考え学習する生徒」 「感受性豊かで思いやりのある生徒」 「心と体を鍛え最後まで努力する生徒」 を目指す生徒像とする。廊下等では、挨拶が飛び交う。明るく元気で礼儀正しい生徒が多い。		実習した 内容 (例)授業参観・補助、保健室での救急処置、遠足引率、登下校指導等	授業参観・補助、部活動見学 委員会活動見学、給食・清掃指導、挨拶活動、合唱祭練習、相談室の見学、保健室の見学・お手伝い、事務作業・テスト作成・印刷	
1. 実習の自己評価(実習に対して)、課題					
実 習 の 目 的	評 価	◎:よくできた ○:できた △:できなかった	理 由		
1. 教職員の連携について学ぶ	◎		朝の会議に参加させて頂いた。行事等の緊急マニュアルも拝見させて頂いた。そのため、実際に教職員の方の関わり方を拝見し、自らも実践することができたため。		
2. 生徒とのコミュニケーションのとり方、関わり方について学ぶ	◎		生徒と関わることで知ることができた。しかし、一部の生徒しか知ることができなかったため。		
3. 学校での生徒の実態を知る	○				
課 題	一人一人に合った対応力を身につける。 視野を広くもち、個人と全体を見る力をつける				
2. 実習全体を通しての学びと感想					
一 学び — 教職員と生徒の関わり方 厳しい面や受容する面、メリハリをつけて生徒と関わることで、丁度良い関係を築くことができると感じた。 〈様々な知識をもつ重要性〉 科目の専門知識のみならず、一般教養はもちろん、今、話題となっている情報などを、知っていることで、生徒とのコミュニケーションの幅が広がるということを学んだ。 〈学年、クラス、その時々に合わせて対応力が大切〉 学年、クラスでは、雰囲気異なる。それらに合わせて指導や臨機応変な対応力が大切であると学んだ。 〈準備の大切さ〉 養護教諭の先生は、自分が不在の時、他の教員が緊急の対応ができるように、セットやマニュアルが、準備されていた。学校全体で生徒を守っているということを感じた。 〈生徒主体とすることでより学びを深める〉 教師がすべてを教えるのではなく、生徒同士で教え合ったり、グループで話し合いをする、発表をする機会をつくることで、生徒自身の学びが深まるということを学んだ。時間は、多少かかるが非常に大切だと感じた。 一 感想 — 非常に充実した四週間だった。実際に中学生と触れあってみると、どのように対応すべきなのか悩んだり、責任の重さを感じた。しかし、生徒の喜びを一緒に感じたり、頑張る姿を応援したいという気持ちになったり、教師の魅力がそれ以上に感じた。保健室では、実際にアセスメントの様子、実体験などのお話を聞かせていただき、多くのことを吸収し、実りのある実習となった。この貴重な経験を糧に学び続けることが大切であると感じた。					
3. 先輩に伝えたいこと					
今、自分にできることは何かということを考え、明るく、元気に、積極的に取り組めると良いと思います。四週間あるという間です。一日一日を大切に頑張ってください。					